



堀場製作所OB会

# 会報

通巻29号

発行 平成23年1月31日

発行者 堀場製作所OB会

川越 幹

編集者 山本広太郎

## ◆第15期年次総会報告

- ・年次総会・懇親会
- ・特別講演・・・堀場最高顧問
- ・会社の近況・・・佐藤常務

## ◆第1回定例幹事会報告

## ◆クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・ビデオ・カメラクラブ
- ・グランドゴルフクラブ
- ・釣りクラブ

## ◆堀場OBボランティア部会

- ・鴨川を美しくする会主催「鴨川合同クリーンハイク」、「鴨川定例クリーンハイク」に参加

## ◆堀場OBキャリア部会

- ・モノづくり殿堂「工房学習」に参加
- ・「京都モノづくりの殿堂・工房」の概況報告

## ◆OB会行事報告・案内

- ・「夏季懇親会」を開催
- ・クリスタル光学見学会と懇親会を開催
- ・レジャー例会（カメラクラブ共催）
  - ▶ 秋のレジャー例会 日吉大社紅葉狩り
- ・行事案内

## ◆会員寄稿文

- ・昔の御金の話・・・梶並 強平
- ・私の釣りの楽しみ・・・西田 裕一

## ◆OB会連絡

- ・第14期新入会員懇談会を開催
- ・堀場製作所OB会15周年記念事業について

## ◆東京支部活動報告

- ・第15期定例会を開催
- ・秋の懇談会を開催

## ◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

## ◆編集後記



京都には寺田屋、池田屋等、坂本竜馬にゆかりの地は多い、河原町蛸薬師と木屋町の間、旧土佐藩邸跡の近くに、ひっそりと佇む小さな土佐稲荷岬神社という社がある。もともと鴨川の中州にあったが、土佐藩邸に遷祀して以来土佐稲荷の名称が被せられた。

あまり気づかれないが、最近話題の竜馬にあやかり、敢えて手書き看板が上っているのが面白い。

## 第15期年次総会

### 年次総会概要

去る10月7日（木）午後1時から堀場製作所OB会第15期年次総会が本社講堂にて開催されました。昨年は月末開催でしたが、今年は上旬の開催



で、毎年開催日が直前になってしか決まらないにもかかわらず、悲願の50人超の参加者がありました。

毎年、堀場最高顧問と堀場社長のお話を賜っていますが、直前になって社長に急用が入り、第1部の会社の近況報告については、代わって佐藤常務



からお話を頂きました。

第2部は年次総会ですが、第14期の活動報告、会計報告、監査報告があり、期首の計画どおり遂行出来たことで全員から承認されました。

第15期の活動方針と予算案についても、もっと楽しめる例会とさらに社会貢献を強化するという

ことが、大枠承認されました。そして今回新たに2名の幹事候補が上程され、満場の承認を受け、幹事体制の若返りとして、今後の活躍が大いに期待されました。

続いて新規入会された12名が紹介され祝福をうけ、また今年の9月20日時点で古希を迎えられた3名にお祝い金が贈呈されました。



今年の年次総会のメインイベントは懇談会で、全員が6グループに別れて、①諸活動への参加率の向上策、②会員から諸活動の提案促進策の2つのテーマで討議、活発な意見交換、討議の結果、多数の提案が排出し活発な意見交換、討議の結果、貴重な案が生み出され、各グループから発表があり、これらの提案は、今後の幹事会で具体化し、



会員の協力を得て実行して行くことになりました。

第3部の特別講演は、堀場最高顧問から最近読ま





れた書籍の紹介があり、益々知らねばならないことがまだまだあるとして、今回は、現象の再現性について、カオスの世界等、深遠で大変興味深いお話を賜りました。

第4部の懇親会は、食堂にて、会社から多数の幹部の参加を得、また最高顧問も最後までお付き合い頂き、大変楽しく、現役の方々と交流も出来、全員の健康と会社の発展を願い、盛会裏にお開きとなりました。

・古希祝い金贈呈（敬称略）

前田 正研 山田 昌美 丸山 博

・第14期新入会員（敬称略）

村瀬 潤 中村 正博 吉永 秀 植松 正晴  
稲口 芳春 杉山 頼道 松木 雄三



第15期OB会年次総会を無事終えられおめでとうございます。

さて、私は活字人間なので、面白そうな本が出ると買ってきて、それらの本をパラパラとめくっ



て半分、その中から面白そうな章のみを読むのが半分、全部読むのが半分、そして全体の半分は、日の目も見ずにそのまま置いてあるという状態です。

私は70歳のときは、今までやりたいことは全部やったが、80歳になってからちょっと待てよ、まだまだ面白いことが沢山あると、これらを一通り知る（読む）ためには、まだ10年やそこらかかると思うようになってきました。

そこで、ここ数年くらいの面白い本から三つほど皆さん方に紹介したいと思います。一つは田坂広志さんの「複雑系」という複雑系の経済学書です。複雑系という考え方は相当旧く、原爆を開発したアリゾナにあるボスアナ試験研究所で、戦争が終わってから、サンタフェ研究所と名前を変えて、原爆関係研究者と新しい学者も入れた研究所にて、現在のサイエンスは矛盾点があると、これを解明しようと再出発しました。そこにはサイエンティストは勿論、それに哲学者とか経済学者とか、いろんな文系、理系を問わず参加しています。いままで線形の社会ばかりを進んできて、勿論線形の社会というものはあるが、これに対してのロジックが出来ていない。よくカオスの時代といいますが、よく分からないというのが、カオスでして、一体カオスというのは何かといわれても、カオスだということが終わってしまう。

それがどういう状態にあるかと、色んな経済学の面から哲学的な面からいろんなことから研究されてきたが、日本には1990年代の初めに複雑系の紹介が入ってきたが、我々の目には止まらず、1995年に週間ダイヤモンドに掲載され、複雑系の経済ということで田坂広志さんが、紹介をしていました。それが非常に面白かったので、これを初めから終わりまで読みました。その中で、私にとってショックだったのは、サイエンスというのは何か、これは要素還元法がベースで、わからないものがあると細かく切り刻んで、一番小さいものを調べて、そしてそれを再構築して、こういうものから出来ていると証明する。これが現在のサイエンスで、堀場の仕事がこれにあたります。例えば、X線分析でしたら、X線を当てて二次X線を調べどんな元素から出来ていると、まさに要素還元法そのものが、堀場の商売なのです。科学分析も物理分析も含めて、全部要素還元法です。しかしこれからの世界というものは、要素還元法が万能では無く、ホーリズム、全体制というかホーリズムの世界です。例えばお魚とはどんなものか、切り刻んで、一つ一つの場所に、どんな蛋白質があり、どんな分子があるかを調べて、そして元に戻しても元の魚には出来ないのです。ですからお魚全体を見て、ああこの魚はこういうものである。全てそのままの状態で見るとというのが複雑系の基本なのです。もっといえば、サイエンスというのは、再現性がものを左右する。我々よく不良品を出す。これは堀場の伝統で、皆さん方も沢山の不良品を作っていたと思いますが、本当の二次産業は何をしているかと言えば、昨日作ったものも、今日作ったものも、明日つくったものも同じ性能である。再現性の高いことをもって、その会社の品質管理が出来ている。再現性が高いということは、全ての信頼の元であります。しかし複雑系というものは全然逆でして、再現性が無い。もっといえば、一回性、これが複雑系の基本なのです。例えば今日はお天気ですね。しかしまったくの青空では無く、いろいろなところに雲がある。この空の状態は、一回限りです。100年たっても200年たっても

も、こういう格好の雲は絶対再現できません。そしてまた人間は本当に再現性がないのです。今日こうして会いました。明日また同じ席で、私が同じ話をしてもすべてその人の心は変わっています。ああ昨日聞いた、また同じ話をしていると、全然再現性がないのです。もっといえば、人間が生き残っていること自体再現性がないのです。天気というのも再現性がない。地球自体も再現性がない。地球が誕生してから46億年、一年間同じ状態にあったといったことはあり得ない。どこかで雨が降って、水滴が昨日5滴で今日10滴だったら、もうそれで再現性がないわけです。ですから自然とか、人間とかいうのは、全然再現性がない。再現性があるのは何かというと、物理学です。数学も一応は再現性があります。本日 $1+1=2$ は、明日 $1+1=3$ にはなっていない、相変わらず $1+1=2$ です。アメリカ行っても $1+1=2$ 、中国に行っても $1+1=2$ と再現性があります。お肉を焼いて食べました。同じ部位のサーロインのところにピフテキを食べました。中国で同じ種の牛で同じ部位のサーロインを食べても、牛が違くと味も違う、油の乗り具合も違う。絶対再現性がないわけです。子供の牛が大きくなって、同じ部位を食べても、母親の肉と子供の肉とでは味が違う。父親の肉と子供の肉とも違う。これは人間が一番そうですね。親父がノーベル賞を受けた息子や娘がいますが、親父が偉かったので、息子も偉いかと言えばそうでなかったりする。お母さんがミスユニバース候補であるが、娘さんがどんなに綺麗かと思っても、そうでなかったりして再現性がない。しかし馬くらいになるとやや再現性があり、サラブレッドでは、お父さんお母さん、お爺さん、お婆さんが良いと、それから生れてくる子もいい馬の場合が多い。全部とは言えず、全てに再現性はないけれど、いい馬が生まれてくる場合が多い。去年で一番高い種付け料は、一千万円もする。優秀な馬の種を貰って子を生むのに一千万円も払う。それは確率が高いから払うのであって、人間の場合では、種付けをしてあげるといって100万円出せといっても誰も出さない。それでは10万円ではといっても同じ、一万円でもだめ、それは何故かということ人間は、再現性がないということを知っているから

です。本当に再現性があれば、ミスユニバースも美男の精子をもらおうとか、優秀な学者の精子を貰ったら必ず優秀な子供ができるならいいが、そうではない。しかしそれが社会の仕組みで、もし馬の様に親がよかったら子供は、絶対良い。親が賢かったら、子供は、絶対賢い。親が美人であれば、必ずその子は美人であるということになったら、社会は無茶苦茶になる。これで世の中は成り立っている。神様はうまいことをしたもので、それは複雑系の理論に神様は、人間をもってきたというわけです。ですから皆様も一回限りです。どんなことをしても自分と同じものは出来ないのです。そして同じ人間でも、今日と明日は絶対違うのです。

いろいろな経済学者がいますが、リーマンショックがあったとか為替がどうなったとか、皆知ったかぶりにいっているが、大体あの人達がいっているのは、後出しジャンケンです。不況になってから、その原因は、あれこれといっているが、それなら先に言えと言いたい。1990年代のバブル期に有名な経済評論家が、会社で本業ばかりを熱心にやって持っている余剰資金を有効に運用しない会社はだめといっていた。その同じ人が、バブルが崩壊したとき、本業を忘れて資産運用に走った会社がだめになったといっている。その人の云うことを聞いていたら会社潰れる。もし為替額が絶対明日ドル83円等と分かっていたら、苦労は無い。株屋も人に儲かります等と言って薦めているが、それなら自分で購入せよ言いたい。

高木富子さんという教授が、クオリアということ唱えている。人間は何かぱっと面白いことがあると、あつすごいなあと思う。頭の中からドーパミンとかアドレナリン等神経伝達物質が出て、刺激を与えて、それを受けて次にアクションを起こす。この反応に日本人とアングロサクソンとではものすごく大きな差があることが分かった。アドレナリンとかドーパミンを受けるのは新規性追求遺伝子で、アングサクソンは、100人中50人は、すごいと思ったら何かアクションを起こす。野球でいうとピッチャーが暴投でも何でも飛び上がっても50%がそのボールを受け。日本人は、それと全く逆でミットを出してお



いて、ミットの中にボールが来ればそれを受ける。それが2%、あとの48%は、まあなんとか近くで受けるのが48%。それに対して飛び上がってでも受けるのはわずか2%、ミットのところでしか受けない人が20%である。その20%と2%で22%、残りの78%は、まあまあ受けてやるという態度である。1995年に新規性追求遺伝子というものが発見されて分かったが、私も含めて日本人がそういう人間ということを知らなかった。会長になってから、いろいろベンチャー支援をやり、大学発ベンチャーもやったが、やった割にベンチャーは、なかなか出てこない。それは何故か、あつ面白いということまでは、アングロサクソンも日本人も変わらない。ドーパミンも出すが、それを受けるものが悪い。つまりキャッチャーが悪い。それを受けて立つ者は2%で100人に2人しかない。なんぼ面白いものがあったても、それを受けて何とかしようとする者がいない。以前から論文に出ていたが、人間の性格は、遺伝的にいうと、生まれつきで50%、後天的な環境で50%が左右される。積極的な環境に置くと飛び上がっても受ける人が出てくる。日本人というのは、長年の家庭環境や学校の教育もあり、消極的な傾向がある。人間、一生に一回、面白いことは積極的にやるのが大切であります。リスクマネジメントは本来なら、1

0の中8つは失敗するが2つは成功するかもしれないところを、いろいろ安全装置を考えるなどで、10の中8つを成功させるというものが本来のリスクマネジメントであるはず。しかし日本のリスクマネジメントは、危ないことをやってはいけないという。これはマネジメントでは無い。折角の能力を持っていても逆におさえられてしまう。それよりも危険であるが、たとえ失敗しても助けてあげるとというのが本来のリスクマネジメントです。

日本人には潜在的な能力はあるが、リスクを取らない社会にしてしまった。最近留学しない人が増えている。留学生は、今や韓国や中国の10分の1かになっている。最近堀場を志願する人も、堀場に入ると海外に行かされるといって敬遠されるが、日本にいれば、安全で快適であるというのが理由になっている。まさに海外に行くことは、言葉、習慣その他多くのリスクはあるが、リスクを取りたくないというのでは、発展も無い。リスクを乗り越えたとき、その人は二倍にも三倍も大きな人間になると思います。皆様方の子供や孫にこれからの人生を楽しむためには、大いにリスクを取るよう皆様からノウハウを授けて、育てて欲しいと思います。私もまだまだベンチャー精神で頑張っていますので、皆様も最後まで、ベンチャー精神で頑張ってください。（抄録）

## 会社の近況 …(株)堀場製作所 佐藤常務

本日は、社長及び本日急用の石田副社長の代役で佐藤がお話しします。現在会社を取り巻く経済環境は、2年前のリーマンショックが少し立ち直ってきたと思ってきたが、突然ギリシャの財政



危機が表面化し、ユーロが悪化、15年ぶりの円高が進むなど、世界的な景気の減速化での厳しい状況になっている。

会社の状況として、堀場単体で今期売上見込430億円、営業利益見込16億円を外部に発表している。厳しい状況のなかでこの線は守る見込み。今回発表した2010年第三4半期の連結決算見込1140億円、営業利益見込90億、8月の決算修正分としてこれは達成可能な見込みとなっている。

昨年までとは、各事業とも状況が急変、利益を引っ張ってきた自動車が急変。世界的な自動車の設備投資抑制、国内も円高、エコカー補助金打ち切り等で、生産抑制がされてい。三年前までは、

利益の約半分を稼いできた自動車が営業利益のトップを明け渡す。

科学も苦戦中で、環境は少し良くなっているものの、この分野は大変競争が激しい。日本のメーカーさんも研究開発投資を絞っておられ苦戦。環境については、前期よりは少しは、良くなっているというものの、相変わらず利益率が苦しい状況。

厳しい中でも、お陰さまで医療は堅調に推移しており、小型の血球検査装置、血糖の診断装置、そして当然試薬も拡大中で、売上・利益とも順調に推移している。

もう一つの期待として、おそらく二番目の利益頭は、半導体関係で、昨年大きく足を引っ張ったが、今期半導体製造メーカーさんの好調で、赤字から黒字に転換した。今期はホリバエステックがグループの稼ぎ頭になると見ている。昨年の暮れから受注、生産が急上昇してきて、京都、阿蘇そして上海の工場にて24時間三交代で旧正月もマスフローコントローラーの生産を継続し、これはびっくりしたが、上海も旧正月を返上して生産に従事してくれた。京都がハイエンド製品、阿蘇が量産品の生産を分担している。これまでの月産15000台から20000台体制に持って行く。これは悪い時の三倍以上になる。これまでは主に半導体メーカーで使用されてきたが、現在の大きな違いは発行ダイオード分野に使われるようになってきた。全般的にはまだまだ勢いがある。瞬間的には世界一のシェアを占めており、40%以上はいつていると思われる。残念ながら利益率こそ十分ではないが、大変喜ばしい。

テクノサービスも順調に推移しており、是非とも100億円を達成せんものと全社を上げて努力中であり、士気も上がっている状況。

アドバンスドテクノも昨年と比べ大幅に改善しており、今期は予想をはるかに上回る利益を期待している。水については、堀場とアドバンスドテクノに二元化しているが、今後アドバンスドテクノに開発を一元化し効率を上げる予定である。

HIT、ホリバアイテック、ドライブレコーダーがトラックの安全、安心の要望から需要は相当強いものがあり、競合も激しいが、お陰さまで堀場ブランドが信頼を得て、例えば郵便事業会社

郵便局関連の集配車へ採用されつつあり、また最大の物件は、宅急便、ヤマト運輸への導入の話が進んでいて、三社連合でタッグを組んで対応中で、これは30億円のビッグプロジェクトとなっている。夢と将来性のあるものと認識して取り組んでいる。

海外関係は、ヨーロッパの会社ではユーロ安がプラスに働いている。むしろフランス、ドイツの会社は、これまで輸出高ということで苦労していたが、ここへ来て、輸出競争力がついてきたところである。例えばフランスのジョバンイボン、ABX光学分析と医学用の血液検査装置は、今期堀場を支えてくれる様になってきた。

アメリカHICでの事業は苦しいが、アメリカのメンバーが協力しあって、かなり収益構造を変えてくれた。そのため環境、医療、自動車等大幅に利益をあげる方向に動いている。残念ながら今までは、堀場本体が半分以上利益をあげていたが、今年は、エステックをはじめ海外子会社に助けられている状況であり、これに対して、社長からは日本サイドに激が飛ばされている。

我々の競合先オーストリアABLに対して、2年前までは、堀場が少し高くてもブランド、信頼、サービス等の強みで売れたが、さすがこの円高下では、アメリカ、ユーロ、中国、インド等の市場での販売競争で価格の差が大きく、へたをすると入札では相手が半分くらいで応札してくる。先端では、顧客対応に大変苦労しているが、大幅なコストダウンと新製品の早期開発での対応が必要となっている。

今年は、中長期5ヶ年計画の最終年度に当たっている。当初は売上計画1500億円、営業利益率10%、ROE12%の計画で進んできた。2007年までは非常に順調に推移し、利益も目標どおり、売上もあと60億円のところまでいっていたが、残念ながら、その後景気の後退で、2年連続減収、減益となった。回復はするがピッチが遅いという状況である。

昨年の4月はじめて執行役員の中に外国人を入れた。フランス人二人とアメリカ人が執行役員にはいった。さらに今年の4月から元インテルの副社長が入社した。社長のカリフォルニア大学時代のご学友で、これで外国人執行役員合計4名が就

任し、グローバル経営がさらに進む体制となった。

中国の工場は、第一工場と第二工場があったが、これを現在一か所に集約している。現在は合計9000平米であるが、これを一か所にまとめ、中国の基幹工場としている。自動車、環境を移転し、新たに医学用の検査試薬を中国で生産する体制とした。集中と拡大で合計12000平米強の工場となった。既に第一期の工事は終わり、来年の年明けから本格稼働を予定し、ここを基点にして中国のビジネスを増強してゆく。

京都市のEV京都プロジェクト（次世代電気自動車プロジェクト）に参加した。たまたま日産の副社長さんから話があり、電気自動車の普及を京都議定書を調印した京都の町で展開したいとのことで、さらに地元としては、三菱自動車もあり、一緒に京都の事情にあった車を検討することになった。堀場はHITのデジタルタコグラフで電気自動車の運転状況を解析するという立場で加わってゆく。4月に京都市で調印式があった。

アメリカで「グレイト プレイス トゥーワー インスティチュウト」これは働きがいのあ

る会社というフォーチュン誌の調査で、2007年から2010年まで、25社が選ばれた。その中で2010まで4年連続ランクインしたのは6社で、その中に堀場が入り、メーカーではアサヒビールと当社の2社のみである。これは、社員が会社、経営者を信頼して、仕事に誇りを持って、一緒に働く人と連帯感を持っているか等のアンケート調査をしてもらった結果が審査される。従業員の生の意見が重視されるということで、大きな誇りと思っている。

堀場カレンダーについて、平成6年から特色のあるものを制作しているが、今年は、日本ビートルビー広告賞というもので経済産業大臣賞を獲得した。昨年はカエルの合唱のポスター（京都駅でも掲示）でもらった。これは非常に高い評価を得た。

2010年度の経営方針ファーストクラス クオリティー、真の高品質企業への挑戦ということで、品質問題を最重要ポイントとして、真剣に取り組み、最大限の努力をしている。

今後とも、OBの立場からも後輩を叱咤激励方お願いする。有難うございました。（抄録）

## 14期 第1回 定例 幹事会

平成22年11月4日（木）15:00～16:30、OB会室にて、石黒英憲、梶並強平、川越 幹、小谷昌男、酒井俊英、田中光子、谷口義晴、船越健、森山晶成、山本広太郎 以上10名の出席を得て、第15期第一回定例幹事会が開催されました。今回は、年次総会で選ばれた、石黒英憲、森山晶成、東京の谷口義晴の3名の新幹事も加わり、力強く新期がスタートしました。主な議事内容は、次の通りとなっていますので、ご認識下さい。

### ①第15期年次総会の評価と反省等

### ②年次総会でのグループ提案の具体化検討

年次総会時のグループ討議は今回で3回目となり、討議方法も充実してきました。今回は、全出席者をA～Fの6グループの小グループに分かれて頂き、討議テーマとして「諸活動への参加率の向上策について」「会員から諸活動の提案について」、以上2テーマとしました。今回は、

約1時間20分の時間を取り、討議と各グループの討議結果を発表して頂きました。これら皆さまの貴重な討議結果を、幹事会にて検討、第15期の年次活動計画策定のベースとさせて頂きました。今回の皆さんの真剣な議論、ご提案を通じて、やはり全員参加の実現がいかに重要かが再認識されました。

グループ討議による諸提案について、実施の実現性の高いものは、即実現化を図ると共に、その他については、今後の継続検討事項とした。

テーマ毎の重点提案の主なものは下記のとおりとなっています。これ以外に皆さまから随時ご提案、ご意見等をお願いします。

### ◆「諸活動への参加率の向上策について」

- ・新入会員は積極的に行事に参加する。
- ・年代毎、地域毎に代表者を決める。
- ・参加可能な曜日、時間を調査する。



- ・皆が声かけをして誘い合う。
- ・女性会員の参加を増やす。
- ・会員名簿を公開する。

(個人情報に留意しつつ)

#### ◆「会員から諸活動の提案について」

- ・グループ会社の見学を兼ねて、国内・海外旅行を行う。
- ・京都企業の見学会を行う。
- ・少人数の旅行会を開催する。
- ・年間一つでも参加できるような行事を計画する。
- ・行事のリーダー以外に補佐役をつける。
- ・アンケート結果を分析し計画に活かす。

#### ③第15期新幹事体制及び三役の選出

第15期の幹事体制は、検討の結果下記に決定した。

- ・代表：川越 幹、
- ・副代表：小谷昌男、山本広太郎、梶並強平、酒井俊英、船越健、森山晶成(新)

石黒英憲(新)、田中光子 (会計担当)

谷口義晴(東京支部)、海野興一郎(東京支部副幹事(新))

#### ④第15期行事計画

行事全般についての計画案の検討(具体的に決り次第、会員に通知する)

#### ⑤幹事の役割分担について

従来からの行事担当に加えへ15期より下記の幹事に担当していただく事となりました。

- ・「教養・レジャー」関係に船越 健さん
- ・「キャリア部会」関係に酒井 俊英さん  
(モノづくり関係は石黒 英憲さん)
- ・「ボランティア部会」関係に石黒 英憲さん
- ・「会報」関係に森山 晶成さん
- ・「ホームページ関係」に酒井 俊英さん

#### ⑥会社との定例連絡会議の開催継続

OB会設立15周年記念行事計画についてその基本コンセプトや実施内容を12月までに全員が提出することになった。

#### ⑦その他 新規入会者との昼食時懇親会の実施等

## クラブ活動

### 山遊会

#### —第15回例会—

- ・実施日：平成22年11月13日(土)・晴(黄砂)
- ・行先：二上山(517m) 屯鶴峰(154m)
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、高橋 義治、  
下川 博司、倉原政治、丸山 博

当初10月30日を予定していたが、予期せぬ台風の接近で高い降水確率となり、やむなく11月に延期した。そのため9名の参加予定が6名になってしまったのが惜まれる。

午前7時30分京都駅八条口(近鉄側)に集合し、7時42分橿原神宮行に乗車、8時57分橿原神宮発古市行に乗り換え当麻駅で下車した。

9時20分スタート、当麻寺への途中葛城市相撲館へ立ち寄る。なぜか本日は拝観料無料とのことで、土俵や升席を背景に写真を撮り、展示物を拝観する。10時当麻寺にお参りをして舗装した登り坂に行く。10時30分祐泉寺で小休止、ここから山道となり二手

に分かれる。右を行けば馬の背から雄岳、左は岩屋峠から雌岳である。われわれは左側の道を取り11時丁度に岩屋峠に着いた。

休まず直ぐ下にある岩屋跡を観る。奈良時代の築造といわれ、中将姫がここで当麻曼荼羅を織ったとの伝説もある。雌岳への急坂をジグザグに登



り、11時20分到着。恒例の記念撮影を済ませ、一旦馬の背へ降り雄岳へ向かう。

11時40分山頂で入山料1人200円也を納める。山頂の葛木二上神社の維持管理費に当てられるとか。昼食後大津皇子の墓に立ち寄り、12時30分山頂を後に再び馬の背を経てダイヤモンド・トレールを穴虫峠へと向かう。大阪府と奈良県の県境尾根をアップダウンを繰り返して14時丁度に国道に出た。穴虫峠を経て屯鶴峰入り口に。屯鶴峰は凝

灰岩の風化により奇岩・奇勝となったもので、一木一草もなく定まった道もない。

本来は屯鶴峰を縦断して国道に出る予定であったが、通り抜け不可とのことで奇岩を随意に巡り、2枚目の記念撮影をして入り口に戻る。車道を30分歩き、16時に近鉄南大阪線二上山駅から橿原神宮駅経由で帰路についた。

## ビデオ・カメラクラブ

平成22年12月2日、OB会の日吉神社と比叡山のレジャー例会時、併催でカメラ・ビデオクラブとして撮影会としての活動を行いました。

今回は、西尾勝治と川越幹が参加、紅葉の作品を掲載させて頂きました。

添付の写真は、塀の上の紅葉が、まるで真っ赤なフィルターの様に見える光を透過させ、塀の白壁をピンクに染めていました。

(尚、ホームページでは他の作品も掲載、カラーで楽しんで下さい)



## グランドゴルフクラブ

### —第12回例会—

- ・実施日 平成22年9月29日(水)
- ・場 所 矢橋帰帆島グランドゴルフ場  
(滋賀県草津市)
- ・参加者 7名 (小谷、梶並、萩原、池田、川越、永瀬、山本)

グランドゴルフクラブでは例会として毎月、宮の森公園で開催していますが、年2回、大津の帰帆島グランドゴルフコースで開催、残暑の厳しい中、7名のメンバーが参加にて開催しました。

帰帆島グランドゴルフコースは日本グランドゴルフ協会の公認コースで、4コース64ホールとスケールの大きい素晴らしいグランドゴルフ

場で、他府県からの訪問大会も数多く開催されています。





当日も午前中は岐阜県からバスチャーターで団体が来場され、当クラブは、12時からゲームをスタート、2時半ごろまで心地よい汗を流しながら思う存分楽しむ事が出来ました。

グランドゴルフはシンプルな遊びで経験なくても楽しく遊ぶことが出来、道具もクラブで準備し

ますので、手軽に参加していただく事が出来ます。

第15期は4回、開催の予定です。その際にご案内させていただきますので多数ご参加いただくようお願いいたします。

## 釣りクラブ

好天に恵まれた11月5日金曜日 わが釣りクラブは、日本海 若狭湾 西舞鶴に係留される幸清丸にて、冠島手前の漁礁にて、鯛を狙った釣りを行った。

当初は、参加者は、5名で、1船をチャーターする予定であったが、2名が不参加となり、新加入部員の中村、宮崎の2名と私の3名での釣り行きとなった。

桂坂の中村氏の自宅に集合し、私の車で、午前7時に出発し、京都縦貫高速道路に入り、国道27号線の綾部の高橋釣り具店にて、餌を購入し、現地での釣果の情報を店長より聞いた。昨日の結果は、青物（ハマチ等）は、網が入り（漁船の）魚がおらず、鰯もあまり釣れていないが、鯛はそこそこ釣れているとのことであった。さらに国道27号線を北上し、西舞鶴の幸清丸に到着した。

幸清丸は、中村氏が中村氏が、昔から懇意にしている遊魚船で、今回は、乗合船として我々3名以

まった。

午前10時に出港し11時前に冠島の手前にある漁礁に到着し、釣りを開始した。風、波も少ない絶好の釣り日和で、潮も流れが少ないものの沖に流れていたもので、私は、水深70メートルとのことであったが、完全フカセで釣り始めた。他の3名は、天秤ズボで釣り始めた。5回位150mから120mの距離を重り等を微調整して、魚の当たりを待ったが、当たりもなく、餌の沖アミが、針に付いたままのため、またとなりで、アマダイの35cmが天秤ズボで釣れた為に、天秤ズボに切れ替えた。天秤ズボに切れ変えてから、暫くして57cmのサゴシ



外に他の釣り人の1名を加えた4名で出漁するとのことで、釣り座を決める抽選を行い、その結果、私は、幸運にも1番札で、船のトモ（最後部）に、中村及び宮崎の各氏は、船の前部に釣り座が決



（カマスの子）が釣れた。12時前に中村氏が40cmの鯛を釣り、隣の釣り人が、12時20分ごろに69cmの鯛を釣った。宮崎氏が大型の鯛と思われる魚をヒットした底に潜られ糸が切れた。

12時30分ごろ私が、70cmの鯛を時間をかけて釣り上げ、本日一番の長寸となった。その後も鯛の当りは、ボツボツと続き、62cm、60cmと釣れた。中村氏も69cmの鯛を釣り上げた。午後3時ごろより風が変わり、潮と風が反対となり、アンカーロープに仕掛けの針が掛かり釣りずらくな



り、大型の鯛が釣れなくなり、アンカーロープに近い宮崎氏は苦戦をし、釣果は良くなかった。午後5時50分に納竿し、6時に碇を上げ7時前に帰港した。

3人の釣果は、鯛（70から60cmを4匹、48cmから25cmを9匹）、サゴシ（57cmから50cmを2匹）、

アマダイ（37cmを1匹）、カイワレ（25cmを7匹）、レンコ鯛（20cmを5匹）でした。

特徴としては、大型の鯛（70cmから42cm）が6匹も釣れたことです。これは、記録的には、非常に良いと思われます。

## 堀場OBボランティア部会

### 鴨川を美しくする会主催

#### -22年度鴨川合同クリーンハイクに参加-

10月17日（日）に鴨川合同クリーンハイクが開催されました。この会は1962年から実地され、堀場OB会は2008年から参加しています。

今回は兩岸約9.4Kmにおよぶ過去最大級の鴨川合同清掃を83団体1600名が参加しました。

当日は天候にも恵まれ堀場OB会から4名がお揃いのベストを着用して参加しました。堀場ブルーに大きな白文字のロゴは宣伝効果？は抜群です。

堀場OB会は丸太町橋から三条大橋の右岸を始めて担当しました。

途中、新聞記者につかまり、自然環境や堀場の製品群の説明まで仲間がしてくれ交流を深めることができました。

ここ数年、中州や河川敷が整備され、数多くの魚や鳥たちが集まって



います。

この「水のきれいな美しい鴨川」は京都の誇りであり、定期的に維持管理することは京都市民と行政の責任であると思っています。

私たちの、ささやかな行動を多くの市民の目にとまることにより「ポイ捨て」防止を期待しています。

### 鴨川を美しくする会主催

#### -22年度定例鴨川クリーンハイクに参加-

平成22年11月7日（日）、穏やかな秋空のもと、「鴨川を美しくする会」主催の鴨川クリーンハイクに、堀場OB会からは萩原、周田、宮崎、秋山の計4名が参加しました。

丸太町橋西北詰めに10時前には全員が集合していました。周田先輩から堀場OBロゴマーク入りジャンパーを受け取り、杉江事務局長の注意事項、「鴨川を美しくする会」古村会長から激励の挨拶の後、左岸と右岸の2班に分かれて3km先の北大路橋に向かって出発しました。

我々は、左岸を担当し、杖をつきながら参加し

ている老人や古村会長と対話しながら、しんがりを勤めました。周田さんはタバコの吸殻、宮崎さ



んは枯れ木を、私は流木やガラス瓶、プラスチックの切れ端等を拾いました。萩原先輩は、健脚を生かして先頭グループにいたようです。

途中、この河川敷をレジャーや憩いの場として利用している多く人に出会いました。また、すぐそばの川面に目を移すと、ジャコが沢山跳ねており朝日で銀色に光っている光景を見て驚きました。その川底をよく観察すると透明度も高くジャコやメダカ達がうようよ泳いでいました。ゴミ拾

いも足元から周辺の景観に目を向けると、五感で多くの自然を楽しむことができます。

ゴール地点の北大路橋前では、約15袋のゴミ袋が積まれていて全員が成果を確認し合った後、堀場OB会の集合写真を撮って解散しました。今回は、秋空のもと早朝から心地よい汗をかきながら、何かをやり遂げたという達成感を味わうことができました。

## 堀場OBキャリア部会

### —京都モノづくり殿堂・工房学習に参加—

10月22日(金)に2回目(会報28号9ページに関連記事)の学習サポートがありOB会から4名が参加しました。今回は向島小学校5年生47名が50分間の学習で、10時と(周田、石黒)と11時からの(池田、萩原)2回に分かれ、資料の置かれた机に4名ほどのグループで行われました。

堀場製作所の今回のテーマは「センサー」で、スタッフがパソコンからのプロジェクターを使用して、センサーの説明を行い、そのあとの質問には、生徒から家庭内にある煙の感知器や体温計など、かなり活発に返事が返ってきました。資料も参考にして人にも五感と呼ばれるセンサーがあり、動物にもそれぞれ得意なセンサーを持っていて、人はそれを利用してすぐれた商品が創られているなどの話にも興味がありそうでした。

次に酸・アルカリの説明のあと、各グループに身近な飲み物・洗剤溶液と、各自にPH計を渡してそれらを測る体験をして測定値を記録、実験がサポート員の一番忙しい時間で、計測や結果の発表などで生徒たちとのコミュニケーションを大切にしました。今回の試料では飲み物は酸性で、洗剤はアルカリ性だと判りました。

続いては放射温度計のセンサーを使用しての学習です。離れていても温度が測れる赤外線の説明のあと、各グループ1個の放射温度

計を渡して教室の内や外の物を自由に測り、最高と最低の温度の物を探がさせました。最高はプロジェクターの換気の出口は約70度で、最低は空の雲が約-10度でした。空を測った生徒がいたのには驚きました。こんな時、生徒達はほんとに賑やかになります。最後にモノが出来るまでの仕組みについても、項目ごとに理解しやすく説明されました。

最近は理科系の授業が苦手な生徒が多いようですが、みんな楽しそうでした。まだ難しい内容や言葉が少しはありますが、こんな学習で生徒達が少しでも理科に興味を持ってもらえればと思います。京都市のユニークな学習に多数の参観者がありました。堀場製作所のコーポレートコミュニケーション室の担当の皆さんご苦労さんでした。





## —「京都モノづくりの殿堂・学習工房」の概況報告—

堀場OB会のボランティア部会を中心に、多くの皆様にサポートを頂いているK S V U (Kyoto Senior Venture Union) の活動のひとつである「京都モノづくりの殿堂・学習工房」について、授業を受けた子供達のアンケートを基に、概況を皆様にご紹介させていただきたいと思っております。

平成22年度の9月末に、学習工房で学習した京都市内の小学生4年生、5年生、6年生の10校、児童数にして574人から得られたものです。

このアンケート結果を詳しく報告する事は出来ませんが、子供たちは地元の会社の内容には大いに興味を抱いていると言えます。楽しかった、内容はよくわかったという答えが80%以上に達している、この事業が期待された役割を果たしているという事は間違い無さそうです。

私たち、京(みやこ)モノレンジャーが考えなければいけないことは、工房の学習の内容を、今後どのように進めたら良いかということです。

工房の学習では、どんな体験をしてみたいです

か?という問いに対して、機械の組み立て、木を使った工作、電子部品を使った電子工作、といった希望が多いことです。

K S V Uの事務局の意見も、最近の子供たちの科学離れに対する教育の改善においても、如何に、理科や、化学の実験に面白さを感じてもらえるかであり、何かモノを実際を作って、形にして、記念品的に持ち帰られるような教材が効果的といわれています。堀場製作所の工房学習も、この観点からは改善が必要かもしれません。

堀場OB会では今後の取組として堀場製作所が担当している工房学習をOB会の事業として請負う事を検討しています。

この計画を遂行するためには、現在、キャリア部会に登録されているメンバーだけでは対応が難しく、OB会会員の積極的な協力が必要であります。今後、内容が具体化した段階で会員の皆様にお声へを掛けさせていただきますのでご協力いただきますようお願い致します。

## OB会行事報告

### 行事報告

#### —夏の懇親会を開催—

平成22年7月31日(土)夕方からOB会員30名出席のもと、夏の懇親会が開催されました。同懇親会は、頑固にもずっと二条の「がんこ」で行われてきましたが、今回初めて、堀場製作所のご厚意により「雅風荘」で開催されました。

「雅風荘」は大幅改装されて以来、初めての方もあり、新旧の雅風荘についての想いで話や、会員同士の活発な話で大いに賑わいました。また、最高顧問

や社長の若いときの写真パネルが会場に花を添えていました。





お料理は、典座さんによる季節感にあふれた素晴らしいものでした。宴は、和気あいあいの中で時のたつのを忘れるうちに進行し、源田さんの元気な一本締めでお開きとなり、大変楽しく懇親会を終えることができました。お世話をされた幹事さんに感謝いたします。

少し残念だったのは、参加者が諸般の事情もあったと思われませんが、募集定員より少なかったことでした。

なお、10月の「年次総会」には、会員同士誘い合わせて多数の参加を呼び掛けることが期待されました。よろしくお願いします。

## 一(株)クリスタル光学見学と懇親会を開催一

平成22年9月23日、15期スタート行事として、27名の参加を得て、桐野社長のご厚意で(株)クリスタル光学「京都工場」見学会、堀場OBものづくり勉強会が実現した。

場所は、南丹市園部駅からタクシーで約15分の京都新光悦村にある。工場に着いて、桐野社長から歓迎の挨拶を頂き、本工場完成までの経緯、役割及び特徴などの紹介があった。

まず感じたことは、建物・工場の立地条件の良さ、全館オールLED照明など労働環境面からも周囲の自然と調和した環境配慮工場であることが分かった。

最初は、新製品である投光器や蛍光灯タイプなど各種LED照明器具の組立て室に案内された。次いで、製品の生産工程順に主要機械設備について説明を聞きながら各部屋を廻った。

マシニング・超切削加工～研削～研磨(ラッピング)～測定・検査の順で製品が仕上がる仕組みである。大型門形5面加工機は、正に“働く千手観音”を連想させる90種のツールチェンジャーを備え複雑な長尺部品を一度に加工ができるという。

ミクロン単位の仕上げ精度を確保するため、材料購入、一貫生産方式、各ワーク室の防振対策・恒温空調室さらに最高の検査機器を備えることで、顧客満足が得られるという。

工場内の機械設備及び測定・検査機器はいずれも最高機種のもを備えており、桐野社長の言う“職人を作るな、技術者を作れ”という考え方が徹底しているように思えた。

後半は、近くの湯の花温泉・「溪山閣」の大広間で、昼食の季節の京会席を味わいながら、桐野社長を囲み親睦会を兼ねた質疑応答でしばらくくつろいだ。その後、温泉浴ですっかり疲れを癒したあとJRで帰路についた。今回は、幹事さんたちの名企画と終始行き届いた配慮が大変うれしく楽しい一日であった。



## —レジャー例会—

### 東山紅葉狩り(ビデオ・カメラクラブ共催)

平成22年12月2日(木)12月としては暖かく絶好の天候に恵まれ、参加者16名は京阪電車坂本駅に集合して今年最後のレジャー例会を開催しました。

目的地は、日吉大社と延暦寺での紅葉狩りが目的でしたが、もう遅いのではという心配をよそに、まだまだ美しい残り紅葉を大いに堪能することが出来ました。

最初の日吉大社は、山王総本宮と言い、全国3800の分霊社を持つ名刹です。また湖国三大祭の一つの山王祭の神事を司祭し、毎年4月には7基の神輿による勇壮な神事がとり行われています。境内には、約3000本の紅葉があり、関西屈指の名所となっています。

延暦寺は、およそ1200年前、伝教大師最澄上人が万民豊樂を祈って、数多くの伽藍を建立し、修行を重ねた霊山となっています。皆さんも良くご存じの様に、法然上人、親鸞上人等々各宗教的偉人が輩出された我が国仏教の根本の道場となっていて、総合仏教の里とも呼ばれています。一行は、同寺の壮大さに圧倒され、一時的ではありますが、霊山の故か、いつになく敬虔な気持ちになって、ケーブルカーで俗界におりました。



毎回のレジャー例会については、もう一つの必要条件として、昼食には何が食べられるのかが、皆さんの声なきメッセージであり、幹事もこれにも頭を使うところですが、今回は、参加者からのご提案もあり、日吉大社前の老舗料理屋「芙蓉園本館」で本格的な和食弁当を予約しておいた結果、皆さん大広間でゆっくりと舌鼓を打って頂けた様でした。

尚、15期の年間スケジュールどおり、来年2月には、一泊旅行の年にあたり、今から検討していますが、皆さんからも大いにアイデアを寄せてください。

#### ・参加者(敬称略)

川越 幹、小谷 昌男、萩原 孝一、高橋 義治、池田 俊明、田中 光子、丸山 博、下川 博司、船越 健、浅島 芳雄、西尾 勝治、矢野 久雄、東 信好、澤田 喜行、永瀬 禎一、山本広太郎

## 行事案内

平成23年9月までの行事計画を下記の通り策定しましたのでご案内させていただきます。

いずれの行事も実施内容が確定次第、会員の皆様に通知させていただきますので多数参加いただきますよう宜しくお願い致します。

- ・一泊旅行 2月17日～18日 山中温泉
- ・春季懇親会 3月12日(土) がんこ二条苑
- ・レジャー例会 4月上旬 桜の名所
- ・レジャー例会 6月3日(金) 長浜

- ・夏季懇親会 8月20日(土)
- ・レジャー例会 9月中旬 高野山
- ・総会・堀場OB会設立15周年記念式典 10月
- ・企業見学会(工場、資料館、研究所等)

なお、行事案内の送付につきましては、アンケートにより案内の送付を希望された会員にのみ送付させていただきますのでご了承下さい。



## 会員の寄稿文

### 昔のお金のお話

### 梶並 強平

子供の頃、古銭を集めた事があった。自宅にあった古銭や、友人、親戚等の旧家にあった明治時代の硬貨を貰って集めて楽しんでた。その中には、50銭銀貨や今の500円硬貨より大きいと思われた（幼かった頃なのでそう思われたかもしれませんが）弍銭や壹銭銅貨それに半銭等も多くあったが、これらの古銭は実家の蔵の2階に置いていた事は覚えているが、今は代もかわり、その古銭はどうなっているか分からない。

その後、大半は貰った硬貨(自分から集める様な趣味はない)で、これらの硬貨は近年のもので、全く希少価値が無いものばかりである。例えば平成2年の御即位の500円記念硬貨(写真1)や大阪花博の5,000円銀貨(写真2)やUSAの1/2ドル硬貨(写真3)などである。

ところで、明治時代の1円は今のお金に換算すると、いくらぐらいの価値があるのだろうか。単純に明治30年代頃の物価と今の物価を比較すると、その当時の人々の生活様式や生活物資の内容、それに生活レベル差があり、単純に比較するのは難しいのですが、一般的に比較すると約4,000倍に相当すると言われている。つまり、明治30年代の1円は今の4,000円程度になる。

明治30年代の初めの頃と言うと、日本には、欧米の近代文明の波が押し寄せてきており(前半と後半とでも又大きく変わっている)その当時、コーヒーや背広、ワイシャツが売られ、それに娯楽として映画やオペラの開演がなされ、東海道線の冬季の汽車内は、炭火による暖房と言う、こんな時代でもあった。

当時は、生活水準が低く、仕事内容も今とは違い、又職業によっても所得格差が大きかった様ですが、小学校の教員や、お巡りさんの初任給は月9~10円、工場の技術経験者が20円で、この事から当時の物価上昇に比べて現在の給与が大幅(約5倍程度)に伸びている。

この様に、今に比べて給与水準がとても低かった為に、庶民の生活が大変苦しかったと言える事になる。

そこで、今の給料比から考えると、明治30年代当時の1円が現在の2万円の重みになる計算ですが、その当時銀座で売られていたアンパンは1個1銭だったそうで、いまの時代に換算すると200円になり、「うどん、そば」は2銭、カレーライスは5銭であり、あまり大きな差はありませんが、瓶ビール1本が20銭だったそうで、現在の価格にすると、なんと1本4,000円にもなる計算になり、庶民の安い給料では、一寸ビールで晩酌と言う事も出来なかった事になります。さらに自転車については当時はアメリカ製の自転車しかなかったのですが、自転車1台はなんと200円で売られていたそうで、現在の価格にすると約400万円にもなり、高級自動車並みの値段だった訳で、当時の給料の2年分と言うことになり、一般庶民では、自転車にも乗れなかった事になります。

自動車に至っては更に高く、1台が5,000円もしていたようで、自動車については、1億円相当にもなり、高嶺の花になります。

今では、たったの1円と言うことになりますが、物に対する物価が時代とともに変わりその差も大きく変わっているのが改めて考えさせられます。

### 私の釣りの楽しみ

### 西田 裕一

京都府の綾部市の中心部の街中で育った私は、釣りに関して、最初の記憶が残っていることは、小学1年か2年のころ、祖父に自転車に乗せてもらって、自宅より多分10km離れた田園地帯の用水路での真鮎釣りである。餌のミミズを針に付け、穏やかに流れに仕掛けを投入し、やがて、うきが

びくびくと引っ張られ、竿を上げると20cm位の鮎が釣れて、大喜びしたことが、その後の釣りを楽しむきっかけになったと思う。病弱だった父も、たまに会社の休みの日には、由良川に生えハエジャコ(オイカワ)釣りに連れて行ってもらったりしていた。小学生までは、由良川やの池で、い



ろんな淡水魚を近所の仲間と釣って遊んでいた。中学、高校及び大学では、テニスクラブの練習等で、釣りはほとんど出来なかった。

堀場製作所に入社してからは、サッカー、野球、テニス及びゴルフクラブ等で楽しみ、体力の衰えた三十代後半に、釣りクラブに入り、以後釣りクラブで、釣りを楽しんでいる。釣りの楽しみは、次のような楽しみがあり出来る限り続けたいと望んでいる。

①対象を選ぶ楽しみ、現在は情報がすぐに入手出来、かつ、仕掛け、道具等も技術革新により進化した、今まで難しかった対象が、ゲット出来るようになり、しかも団体で行動することにより、より、簡単に（経済的にも）釣り行きが出来る。たとえば、大鯛、ヒラメや鯛等が比較的簡単にゲット出来る。

②対象に合わせた仕掛け、道具等の製作や、餌やその他の段取りを行う楽しみ。特に、針や糸に関しては、市販の仕掛けを使わず、自分で吟味した材料にて考える状況に対応しうる仕掛けを作って楽しんでいる。

③釣る楽しみ。対象の動き等を想像して釣りそのものに没頭して、何もかも忘れ集中して、大物を取りこんだときの達成感は何物にも代えがたい喜びである。

④美味しく頂く喜び。ゲットした魚を美味しく頂くことも楽しみであり、たとえ、ヒラメ釣りの外道のエソでも、釣りあげたからには、持ち帰り、ツミレにして鍋料理に使い美味しく頂いている。以上、釣りクラブに入り、以後、30年ほど釣りを続けているが、団体で行え、かつ安全で楽しく釣り行き出来るように、今後も企画していきたいと思っている。特に堀場OB会の釣りクラブを昨年より結成して、平日に行動した釣り行きの釣果は、自己採点では、4勝1敗であった。添付の写真は、今年の8月のイカ釣りと11月の鯛釣りでゲットした対象の写真である。イカは、剣先イカ（マイカ）で胴長30cm、鯛は、寸法70cmと62cmである。



## OB会連絡

### — 新入会員紹介 —

平成22年8月以降に入会された会員を紹介します。

(敬称略)

1412	木下 大日郎	1503	小林 正義	1507	須崎 琢而
1413	山岸 豊	1504	宮崎 芳雄		
1501	小島 建之助	1505	森井 邦彦		
1502	岡田 知二	1506	川尻 茂樹		

### — 新入会員懇談会 —

平成22年11月25日（木）昼休時間を利用して、新規入会者7人と幹部4人の計11人が、OB会室にて典座の配達弁当を食しながら、懇談会を持ちました。OB会幹部からはOB会の基本コンセプト

トや現状の活動内容等の紹介を行ったあと、皆さんからの質疑に対する説明や、逆にご意見、ご提案等をお聞きし、お互いに認識を深め会い、今後のOB会活動への参画のきっかけづくりともなりました。

入会当初の会員は、まだ勤務を持っておられ、時間的に一定の制限がありますが、行事を土、日に行うなど、出来るだけ参加し易くすることとか、また、OB会に新規入会后、はじめて活動へ参加する時の不安感と敷居が高いとの雰囲気無くす等もポイントとなりました。

一方皆さんへの行事の連絡については、OB会のホームページを最大限に活用して、行事計画と申し込み方法、そして実施後報告をより一層充実してことも改善点になりました。尚、現状パソコンを使っていない会員には、手紙、ハガキ等で情報の公平化に留意していますがこれも継続してゆきます。



今回は、昼食時の短時間ではありましたが、一同が顔を合わせて話し合うことで、OB会への認識を深めて頂き、諸活動への参加意欲を持って頂いたことと感じています。

## － 堀場製作所OB会設立15周年記念行事について－

堀場製作所OB会は平成8年10月に設立され15周年となります。

この15周年を記念して今年の秋に記念式典を開催する事になりました。記念式典は、秋に開催されます年次総会を拡大し、年次総会に引続き式典を開催します。

式典の内容につきましては、準備委員会を設け検討を始めます。

開催日は、出来るだけ早く会員の皆様にお伝えさせていただきます。

是非多くの会員の皆様が参加いただきますよう宜しくお願い致します。

## 東京支部活動報告

### － 第15期第1回定例会を開催－

東京支部は9月24日（金）東京セールスオフィス2階エレクトロホールにて、15期第1回定例会議を行いました。

#### ・東京支部の体制について

幹事：谷口 副幹事：海野 今後は必要に応じ 副幹事：2名体制の了承を得た。

#### ・活動計画について

- ①ゴルフ付一泊懇親会は、安房鴨川方面とし次回定例会に具体案を提出するとした。
- ②トップ 歓談会は、定例会に行えるかどうか東京幹事会で検討するとした。





③4月の定例会に川越代表幹事に来て頂くとした。

④今後の定例会は4回/年 時間を13:00～14:00とし延長30分 二次会は14:30～(大新) レジャー以外の活動で良いテーマがあれば、定例会後に場所を移動して行うとした。  
・幹事会報告として谷口幹事より配布資料に基づき説明があった。終了後二次会(大新)にて懇親

会、三次会(喫茶)後解散した。

◆出席者(敬称略)

寺西英三、辻川毅、草鹿悌二、土屋富夫、玉置健三、谷口義晴、大道寺英弘、横井広秋、新井章生、海野興一郎

一 第15期第2回定例会を開催一

平成22年12月3日(金)13:00よりTSOエクセレントホールにて今期第2回の定例会が開催された。

定例会は毎年続けられている、堀場社長との懇談会を分析展開催中に開催する方向で進める。4月の定例会に川越代表幹事にOB会の重点方針と活動状況等の話をお聞きする為昨年引き続き出席して頂くことになった。又、来年堀場OB

会設立15期周年記念行事について支部にて内容を検討した、京都近郊で合同で開催しては、平城京遷都1300年を味わうという事で奈良の3寺を見学を、加えた行事はどうか、交通費等の負担をお願いします。

6月3日(金)～4日(土)の支部レジャ会(ゴルフ付き)は素案通りで、4月までに内容と人数を詰める。

幹事より総会、幹事会、の内容と福田さんの退会、9月定例会の中止、次回は4月8日(4月7日(木)に変更)等報告された。

例会終了後懇親会を忘年会を兼

ねて大新にて行い、二次会(喫茶)まで近況を含め、何か役に立つ仕事がないか、勉強会をやつてほしい、真剣にまた楽しく、遅く迄続いた。

出席者(敬称略)

寺西英三、辻川強、草鹿悌二、村木泰雄、土屋富夫、玉置健三、龍重法横井広秋、海野興一郎、谷口義晴



一 秋の懇談会を開催一

東京支部は残暑厳しい9月2日(木)に千葉市幕張のホテルニューオータニ「すいせんの間」でホリ社長を囲んでの懇談会を行いました。

このイベントは分析展会期中を利用して昨年から行っているものです。

最初にホリバ広報部員による集合写真の撮影のあと、社長から分析展の在り方の推移について紹介があった。

分析機器工業会の会長に就任されて以降、工業会や展示会の近代化、グローバル化を推進され今

年の展示会風景はこれまでと一変しており各社の展示コーナーには新しいセンスが漲っていた。

これからもアジアのハブ展示会を目指して改革を継続していくとの強い意欲を示された。

また、会社の事業では今や従業員の60%が外国人と云うグローバル展開となっているが現地化をキーとして幹部に外国人を積極登用した結果、今回の不況も何とか乗り越える事が出来たし、また半導体事業部門では最悪期には稼働率20%と云う危機的な状況であったが今やフル生産でも追いつかず生産ラインの増設で需要を賄っているとの

ことである。事業の力強い回復はOBとしても誠に頼もしいものであり、益々の発展を祈りたい。

OB会員から様々な質問が行きかう中14:00に懇談会を終了、一同は展示会場へ移動し暫く見学して散会となった。

◆出席者

堀場製作所：ホリ、イシ、サトウ、ムカイ、ヤマシ

OB会：草鹿、辻川、土屋、玉置、谷口、龍、新井、福田



## ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

### － 2010 堀場雅夫賞授賞式－

10月15日京都府知事・京都市市長など多数のご来賓のもと、2010堀場雅夫賞授賞式が開催されました。今年のテーマは「空気中の拡散物質のノンサンプリング計測」でしたが、受賞者の成果を分かり易い画像と展示により参加者が身近に感じて頂けるよう工夫されました。受賞者は下記のとおり。

梶井克純氏（首都大学東京）、ジェラード・ヴィソッキ氏（プリンストン大学）、染井智弘氏（財団法人レーザー技術総合研究所）

（J & F 11月号）

### － 2010年度通期業績予想－

自動車関連の慎重な投資と円高で一時持ち直したものの苦戦中、環境・プロセスは、減収も収益性改善で利益増加、科学も大学・研究機関での需要が堅調に推移中といったところ。為替レートが依然として円高で推移するなど厳しい状況が続く中で、半導体、医用セグメントにおいては、堅調に推移すると見込まれ、売上高1160億円、営業利益100億円、当期純利益58億円と修正予想が発表されました。

（J & F 12月号）

## 編集後記

第15期の年次総会では、第13期から連続三回目となるグループ討議が行われ、これからのOB会の活動に対して、皆さんから多数のご意見、ご提案を発表して頂きました。そして今期2名の新幹事を加えた幹事会で、これらのご意見受け、今後の具体的な活動計画を立案して行くことになり鋭意検討中です。当OB会報も活発な活動内容が満載されることを期待しています。

今期はOB会設立15周年に当たる節目の期でもあり、そのため従来の活動に加えて、記念行事も予定されていますが、それも皆さんの参加と報告が中心となります。そして会報もさらに彩どり豊かなものになることでしょう。

会報の発行は、現状年2回ですが、それもやや遅れがちになっており、ぎりぎりの線を歩んでいます。現在諸活動報告のもう一つのメディアは、OB会ホームページがあり、それなりに速報の機能を果たしており、助かっているものの、やはり会報としては、皆様の持ついろいろなジャンルのじっくりとした話題で盛り上げたいと思います。この件については、まだまだリソースが少ないので、今年こそ編集グループを困らせる程、そして臨時号が発行できる程の原稿をお寄せ下さい。お願いします。（編集グループ）



\*\*\*\*\*  
\*  
\* **堀場製作所OB会** \*  
\* 〒601-8510 \*  
\* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 \*  
\* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 \*  
\* URL <http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor> \*  
\* E-mail horiba.ob@gmail.com \*  
\*\*\*\*\*